

# 教務だより

2018年6月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 夏に合宿がある理由

茗溪塾塾長 宇野 雅春

今から 30 年ほど前、ちょうど、中学受験のリーダーになってまだ若かった私は、中学受験部を飛躍的に強化する方向性として「夏期合宿」を打ち出しました。方向性としては「長時間勉強への橋渡し」がテーマです。子供の発達段階にあっていて、子供の意欲を引き出すものという気持ちが私の中では前提でしたので、内容はどんどん増え、非常にきつい合宿になりました。年を経るごとに、この合宿は高校受験、大学受験と広がり定着しました。

授業だけの合宿は、先生は非常に楽なはずですが、色々なことが盛り込まれる合宿、準備が必要という点でそれは先生たちにとって非常に過酷なものとなりました。テーブルマッチ、不得意特訓、天体観察、カレーコンクール、中でも森林浴タイムトライアルは、毎年人気ナンバー 1 を維持し続けています。このチームで取りくみ自分たちで問題解決していくスタイルは今のアクティブラーニングにもつながります。いつの間にか先生方の平均睡眠時間 3 時間という「ブラック企業」並みの過酷な労働条件が生まれました。森林浴と一言で言っても「下見」「直前のコース確認」「当日の誘導」と、延べ 10 キロくらいの歩行が加わります。そんな中でのある年の合宿の反省会、その年は、非常に力が入っていたのか合宿中に発熱する先生がいたり、気楽に来てしまったのかスタートと同時に、口も利かない（体調不良）先生も出て、私もとても悩んでいました。

反省会でまず先生たちから批判が殺到すると思っていたのですが、その時の反省会は全く違っていました。「大変勉強になりました。ありがとうございます。」と多くの先生方から礼を言われました。結婚して退職するため、最後の合宿という先生は「本当に楽しかったです。…」そう言って涙をこぼしました。

生徒も先生もきついことはあるが、そこに大きな意義を感じてくれている。この時の私の感動は言い尽くせないものでした。生徒だけでなく先生たちが成長する…合宿。

その後、朝型生活習慣を打ち出すなど毎年の改革を経て、夜中のおしゃべりは減り、徹夜で勉強する熱心な生徒たちも早く眠るようになり、先生方も 5 時間の睡眠がとれるようになりました。粗削りな「ブラック」要素は排除しつつ合宿の意義を引きついで去年の合宿では、中学 3 年生の 90 パーセント以上の生徒が担当の先生への大満足を表明しました。先生たちが、喜びをもって生徒に接している様子、分かるまでとことん一緒に学んでいる様子がそこにはありました。今合宿は、その年その年に出てくる学習の改革を試行しつつ、生徒と先生がともに成長する場所として、塾教育の大切な環になっています。大学入試改革が目前に迫るこの時期、2018 年の合宿、短期集中ゼミへ向けてすでに準備は始まっています。